

信頼できる情報として伝えるために、
どんなことを心がけていますか？

～メディアの人たちは？～

某「単行本」担当者

- 監修者(専門医)により監修
 - フィードバックしてO.K.が出たものだけを掲載
- 目立つところに、注意書きを必ず添える
 - 「～の中には商業目的のサイトや古い情報もあります。発信元と更新日時を確認し、複数のサイトを比較してから利用しましょう」
 - 「～病気の治療に直接関係している情報は、主治医に相談してから利用すると安心です」

某「雑誌」担当者

- 断り書きの説明を入れる
 - 治療ガイドラインがまず原則
 - 適応拡大の治療法や手術方法を紹介する際は、その旨断りの説明を入れる
- 情報ソースを明示する
 - 「当たり前だが、心がけていないとくどくなるので、省いてしまいたくなるのです…。」

某「テレビ」制作局スタッフ

- リスクとメリットを”正直に”伝えるよう留意
 - “夢の治療法”という伝え方にならないように
- TVの場合、文字媒体と異なり、微に入り際にいるような伝え方が難しい。
- 短い時間で、多くの人にわかるように伝えなければならない。
 - それゆえ、TVというメディアは、どうしても情報を単純化してしまう傾向がある。
 - 新聞や雑誌のように読み返すことができない。
- 医療ジャーナリストの監修役など招き、その治療法なり、問題点なりの“印象”だけが一人歩きしないよう、かなりの試行錯誤を繰り返し、原稿を書き、VTRを編集している。

某「新聞」編集担当者

～情報の「見極め」～

- 信用レベル

1. (ほぼ無条件に信用)

世界的に著名な学術誌への掲載

2. (次のレベル)

学会の招待講演や教育講演、大学や研究所の
広報を通じての発表など

- さらには、

- 「その研究者や別の研究者に問題点や課題、つまり**否定情報を集める努力**もします。」

某「新聞」編集担当者

～「誤解」の点では、特に注意～

- 人に応用できる段階かどうか
 - 「試験管レベルでも画期的な研究は記事にしますが、同時に人への応用には、まだ時間がかかることを明示します。」
- 「患者さんに過大な期待を抱かせるのは、大きな罪です。」

メディアの人たちが、 心がけていること、注意していること

- 監修者(専門医)により監修を受ける
- 注意書きを必ず添える
 - 「商業目的のサイト、古い情報もあるので確認を」
 - 「主治医に相談してから利用すると安心です」など
- 情報ソースを明示する
- リスクとメリットを”正直に”伝えるよう留意
- “印象”だけが一人歩きしないよう留意(TV制作スタッフ)
- 情報の「見極め」をする

メディアの特性が分かれば、
記事を冷静に見られる

読者に知っておいてもらいたいこと

1. 「記事の内容は完全・不変ではない」

- 「論文の捏造」
 - 掲載の時点では見極めようもなく、お手上げ
 - その時点で正しい情報でも、後の研究で正しくなくなることもある
 - 記者や取材先の誤解に基づく間違いもある
- ↓
- 情報を見るときは、「新しい情報」から見る
 - 複数の新聞を見比べる(図書館などで)

読者に知っておいてもらいたいこと

2. 「記事の扱いは相対的なものである」

- 必ずしも大きい記事だから重要、小さい扱いだからと重要ではない、というわけではない
 - 大きな出来事があれば、研究成果のニュースがそれを押し
のけることは、まずなし
 - 総理大臣辞職や国政選挙、大地震、飛行機・列車事故など
 - 『医療や科学もので1面で大きな記事』、ひょっとしたら他に重要な
ニュースがなかったため?!
 - 地域的な特性
 - “その地域発信の情報”のその地域での扱いは大きい
- 他社がつかんでいない『特ダネ』研究成果であれば、
扱いは大きくなる